

## 5. 岐阜市の鵜飼習俗調査

京都府立大学文学部地理学研究室

### 1. 概要

岐阜市の鵜飼については、「長良川の鵜飼漁の技術」が国指定重要無形民俗文化財となっている。また岐阜市街地は「長良川中流域における岐阜の文化的景観」として国の重要文化的景観に選定されている。こうした文化財の指定・選定をふまえ、岐阜市は鵜飼に関わる暮らしの景観に関する調査を進めようとしている。地理学研究室は、この調査事業を岐阜市と一緒にこなっていくことになった。

今年度は予備調査と位置づけられており、秋に下記の調査をおこなった。

- ・2021年10月10、11日 岐阜市にて調査

（鵜飼屋地区全体の景観調査／鵜飼漁の調査／鵜飼屋地区の現地調査／鵜匠への聞き取り調査〔山下哲司鵜匠家〕）

京都府立大からの参加者：前田愛佳（3回生）・岩本悠梨（2回生）・上杉和央（教員）

### 2. 成果

鵜飼屋地区の調査においては、石造物をいくつか確認した。鵜匠家の名前が刻まれているなど、鵜飼屋地区の歴史的な資料として位置づけられるため、今後、詳細調査が必要であることを確認した。

山下哲司鵜匠への聞き取り調査では、鵜飼に関わる話はもちろんのこと、鵜飼屋地区にある寺社や石造物の話を伺うことができた。そのなかで、鵜匠もまた、鵜飼屋地区の住民の一人、すなわち地域コミュニティの一員であることを改めて理解することができた。これまで鵜飼習俗調査では鵜飼に関わる側面のみ焦点を絞った調査がおこなわれてきたが、暮らしの景観という視点からみると、それは限定しすぎている見方であり、地域のなかで鵜匠がどのように生活をしてきたのかといった視点がなければ、地域の鵜飼としての個性を切り出すことができない。予備調査において、こうした点への理解を得られた点は大きな収穫であった。

今後、調査を継続していくことにしたい。



図1 調査の様子（2021年10月11日）